



## 人間福祉学部 *School of Human Welfare Studies*

社会福祉学科	実践的な学びを通して未来の福祉を担い、優れたソーシャルワーカーを育成
社会起業学科	グローバルに、ローカルに、社会の課題を解決する社会起業家を育成
人間科学科	「こころ」と「身体」の両面から人々を支える人材を育成

## 人間福祉研究科 *Graduate School of Human Welfare Studies*

人間福祉専攻	「福祉」にもっとイノベティブ視点を。広く、深く、人と社会を探究する。
--------	------------------------------------



**関西学院大学** 人間福祉学部・人間福祉研究科  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY School & Graduate School of Human Welfare Studies

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

Web [https://www.kwansei.ac.jp/s\\_hws/](https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/)

# 第17回 気づきを築くユニットケア 全国実践研究フォーラム

2018年3月10日(土)・11日(日)

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

[〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-55]

認知症ケア  
専門士単位  
3単位

実践発表者には発表者単位として  
1単位加算されます。

ワクワクするような実践をたくさんつくり出しましょう!

動き出しは  
当事者から

職員がやめない  
工夫とは?

認知症の方との  
コミュニケーション  
方法

お年寄りの  
表情が変わった!

「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2001年に岡山県笠岡市で「全国実践者セミナー」としてスタートし、これまで全16回が開催され、毎回多数の実践現場から、日々の取り組みが発表されてきました。ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みの内容は施設によって実にさまざまです。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至ったという取り組み発表もあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフがケアのあり方やスタッフの育成、施設と地域などの実践をまとめ、伝え合い、交わり合い、より良いものにしていく場として開催します。このセミナーでの発表を機に、「お年よりの表情が変わった」「職員が変わった」「ケアが変わった」など、数多くの感想が寄せられています。第17回となる今回からは、名称も新たに「全国実践研究フォーラム」として、全国の実践を発表者と参加者がともに学び、考え合う場とすることを目的とし、会場も新たに関西学院大学で開催します。

主催：気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム実行委員会  
共催：関西学院大学／特養・老健・医療施設ユニットケア研究会  
小規模多機能ホーム研究会／地域共生ケア研究会

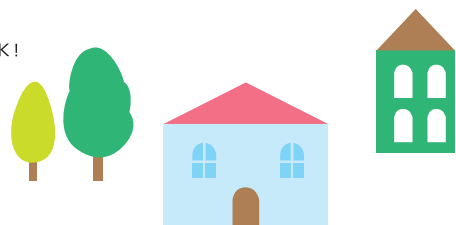
# 1日目 3月10日(土) 実践発表タイムテーブル

11:50~12:00	開 会(各教室にて)	ご要望により本大会から、抄録・フェイスシートデータは、
12:00~14:05	実践リレー①(5発表)	本会ホームページから、参加者自身で事前にダウンロードして
14:05~14:20	休 憩	持参いただく形式へと変更しました。
14:20~16:25	実践リレー②(5発表)	なお、当日資料には抄録・フェイスシートは掲載しませんが、
16:25~16:40	休 憩	大会当日は当日資料とともにデータ収録したCD-Rを
16:40~17:55	実践リレー③(3発表)	お渡しいたします。

## 実践発表テーマ

- 第1部門 私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)  
ユニットケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みのなかで失敗してしまったこと、悩んだことなどの体験談、また取り組みから気づいたことや見えてきたことなどについて発表します。
- 第2部門 一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫(基礎編)  
ユニットケアで3大介護(食事・入浴・排泄の介護)はどのように変わるのか。3大介護にまつわる苦労や工夫について、発表します。
- 第3部門 “食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし  
食事づくりや場づくり、買い物や外食、栄養マネジメントや口腔ケアなど、その人らしい豊かな暮らしを目指す取り組みを発表します。
- 第4部門 これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり  
豊かに暮らすためには生活環境も欠かすことのできない要素の一つです。これまでに暮らしてきた環境をできる限り変えないための地域とのつながりや施設の設えの工夫などを発表します。
- 第5部門 介護者家族との協働で実現する、その人らしい暮らし方  
利用者に身近な存在である家族はかけがえのないたいせつな存在であり、またさまざまな難しさを抱えていることもあります。ご本人が望まれるその人らしい暮らしとその人生を実現するための、家族との関係づくりや協働・連携の取り組みについて発表します。
- 第6部門 認知症の方とのコミュニケーションの工夫  
認知症の方に対して尊敬と共感をもって関わるには？認知症の方の行動に対する理解や悩み、日常生活での見守りなど、ケアに関する工夫や取り組みなどを発表します。
- 第7部門 ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと  
施設は、日々暮らしをおくるだけではなく、人生の最期の場となることもあります。「施設での看取りのあり方」「医療機関との連携」「看取ることをとおして築かれた家族との絆」など、施設におけるターミナルケアを発表します。
- 第8部門 職員同士のチームケアや多職種との連携  
一人ひとりの暮らしを支えるには、その方向性や情報を共有するチームの構築や職種を超えた連携が必要不可欠です。時には、施設を超えた協働や連携も必要となります。ケアに関わる専門職同士が協力しながら、利用者の暮らしを、より豊かにする取り組みを発表します。
- 第9部門 施設の人材確保、職場の環境づくりについて  
昨今、ケアの現場では人材不足が深刻な問題となっています。現場経験や知識が少ない初任者に、ユニットケアの考え方をどのように伝えていくか、職員が魅力を感じ、働き続けてくれる職場とは？募集から待遇の改善、辞めさせない工夫など職場の環境づくりを発表します。
- 第10部門 スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと  
よりよいケアを提供すること、現場のさまざまな事情でリーダーや管理者は思い悩みます。いまの職員のやる気とやりがいを引き出すにはどうしたらよいか。スタッフの資質をどう伸ばしていくか、人材育成のための工夫や体制づくりについて発表します。
- 第11部門 思いのままに実践発表(ショート枠10分)  
日頃の気づきを思いのままに。日頃のケアをするにあたって疑問や悩み、とにかく伝えたいことなど、なんでもOK！通常よりも短い10分の実践発表です。

最新の発表タイムテーブルや情報は大会ホームページからダウンロード可能です。[ユニットケア研究会](#) [検索](#)



- 定 員 800人(※定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 参加費 ■一般参加費 15,000円  
■実践発表者 13,000円  
※実践発表者は、1発表2人まで割引適用。
- 参加申込締切 2018年2月19日(月)

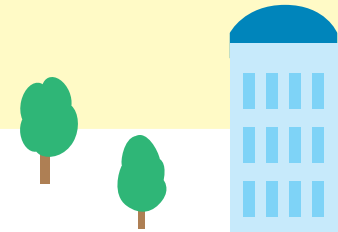
### 参加にあたっての留意点

1日目の実践発表は、各教室にて自由にお聞きいただくことになります。  
つきましては、参加者が多い教室では立ち見となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。参加者の皆さまには、申込締切後、教室別の実践発表一覧をお送りいたします。一覧を参考に、各教室を移動してお聞きいただくことになります。  
なお、2日目の分科会につきましては、希望される分科会を選び、○印をご記入ください。

# 2日目 3月11日(日) 分科会プログラム

- A1 10:00 【アンコール報告】～好評だった発表のあれから1年、その後の展開を報告します～  
12:00 ★実践報告① 「お願い食べて!!」～命の強さとあきらめない私達～  
特別養護老人ホーム 一本松荘(熊本県) 介護福祉士 前田 由梨亜 介護福祉士 清田 知史  
★実践報告② 「暮らしの中で家族と共に看取る」  
地域密着型特別養護老人ホーム クレール高森(和歌山県) 介護主任 東 潔明 施設長 岡 司  
★実践報告③ 「リーダーの在り方 ～超変革!～」  
高齢者総合福祉施設 愛しや(兵庫県) 介護主任 田淵 弘徳  
★サポーター 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 代表 武田 和典 ★コーディネーター 関西学院大学 人間福祉学部 助教 橋川 健祐
- B1 10:00 【現場実践支援講座1】「バリデーションへの誘い」  
12:00 認知症高齢者に尊敬と共感をもって関わるコミュニケーション法である「バリデーション」  
介護者はもとより、介護者家族のためにも役に立つ導入事例を紹介します。  
★講 師 関西福祉科学大学 社会福祉学部 教授 都村 尚子
- C1 10:00 【シリーズ:社会福祉法人の地域貢献Ⅰ】入門!地域共生社会  
12:00 4月から施行される社会福祉の大変革「我が事・丸ごと」のポイントをわかりやく紐解きます。  
★講 師 関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井 博志 ほか
- A2 13:00 【現場実践支援講座2】「動き出しは当事者から」  
15:00 認知症の方など(当事者)の意思の現れでもある「動き出し」から意図を察し、利用者の視点に立って  
介護を行う方法を紹介します。  
★講 師 日本医療大学 リハビリテーション学科 准教授 大堀 具規
- B2 13:00 【講演】自立支援に向けた自己点検ノートの活用法  
15:00 今回の介護報酬改定のテーマの一つとなった、「自立支援・重度化防止」は、サービス提供者本位では実現困難です。  
まず利用者のプライドへの配慮をベースに利用者との連携の有無が最重要視されます。利用者を知り、  
信頼関係を構築するために有効な「上手に老いるための自己点検ノート」の活用方法を紹介します。  
★講 師 老い支度普及センター主宰 老い支度クリエーター 石黒 秀喜
- C2 13:00 【シリーズ:社会福祉法人の地域貢献Ⅱ】新しい総合事業を地域貢献に活かす  
15:00 住民主体の支え合いの支援である「新しい総合事業」が地域貢献を進める上で  
大きなヒントになることをわかりやすく解説します。  
★講 師 東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授 高橋 誠一 ほか

Let's make the life of facilities



### 申し込みに関するお問い合わせ

JTBビジネスネットワーク・JTB東北ECデスク  
(ご連絡いただくのは東京の事務所となっております)  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14 ダイハツ・ニッセイ池袋ビル6F  
JTBビジネスネットワーク気付 JTB東北ECデスク  
「第17回気づきを築くユニットケア 全国実践研究フォーラム係」あて  
電話:0120-989-960 FAX:0120-937-224  
E-mail:tohoku-ec@jbn.jtb.jp (営業時間:土日祝除く平日 9:30~17:30)

### 内容に関するお問い合わせ

気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム実行委員会  
事務局／特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 担当:田村  
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30  
シンエイ木町ビル1階  
TEL:022-727-8732 FAX:022-727-8737  
E-Mail:unit@clc-japan.com  
大会Web [http://www.clc-japan.com/unit\\_care/](http://www.clc-japan.com/unit_care/)